

—静岡県—

地域住民との協働による取組み事例 ～港湾緑地の計画・整備から管理まで～

1. はじめに

“ふじのくに田子の浦みなと公園”は、静岡県富士市南部に位置する田子の浦港の一角に整備した広さ約7.6haの港湾緑地である。平成17年3月に県・市が策定した「田子の浦港みなとまちづくり基本構想」に基づいて地域との協働により計画・整備が進められ、平成30年3月に完成した。

当公園は、計画段階の参画のみならず、完成後の管理も地域住民が主体的に行っているのが特徴で、その一連の取組み事例について紹介する。



田子の浦港全景（平成30年2月撮影）

2. 港湾緑地整備の背景

高度経済成長期に県東部の物流拠点として整備された田子の浦港は、経済優先の施策で進められた結果、市民から遠く近づき難い存在になっていた。

また掘込式港湾である当港は、その特性上、河川等からの土砂流入により港内泊地が埋没しやすく、継続的な維持浚渫が必要であるため、浚渫工事で発生した土砂は主に陸上埋立処分を行っているが、埋立処分地の確保が課題となっている。

これら解決策として“ふじのくに田子の浦みなと公園”が計画された。土質改良した浚渫土砂を使って埋立盛土を行い、埋立後は観光交流の拠点としての港湾緑地整備を進めるというものである。浚渫土砂を活用する当計画について、地域住民の理解が得られたことから事業化に至った。

3. 地域住民との協働による整備と管理

公園計画の策定にあたって県と市は、地域住民にとって管理しやすく愛着の持てる公園にすることで、完成後の管理を地域住民に担っていただくことを見

据えて、構想段階から地域住民に参画していただくこととした。

平成17年には、地元自治会や漁協、関係行政機関他で構成される「田子の浦港みなとまちづくり推進連絡協議会」を設置し、公園の配置計画をはじめ、歴史的施設“ディアナ号”や富士山と駿河湾を一望できる“シンボルタワー”の整備手法等について、ワークショップなどにより地域の思い描く公園像を具体化していった。

「NPO法人みなと・まち育て田子浦」
(背後は平成29年3月完成のディアナ号)地域住民による植樹
(背後は平成30年2月完成のシンボルタワー)

平成22年3月には公園の一部が完成。以降、供用部分については「NPO法人みなと・まち育て田子浦」に管理していただいている。当NPOは、計画段階から参画いただいた地元関係者らが設立したもので、まさに「計画・整備から管理まで」地域との協働による取組みが実現したものである。

課題も少なくないが、今後も引き続き地域住民とともに適切な公園管理に努めていきたい。

(静岡県 交通基盤部 港湾局 港湾整備課 川口 進)